

第98回 教育研究発表会(2次案内) - 研究だより 第36号 -



香川大学教育学部 附属坂出小学校

研究主題

対話を通じた「思考力」の育成 (2年次)

— 「育てるカウンセリング」を生かして、
個々の考えを広げ深める授業づくり —



日程

平成 28 年

1 月 28 日 (木) ・ 29 日 (金)

研究概要図

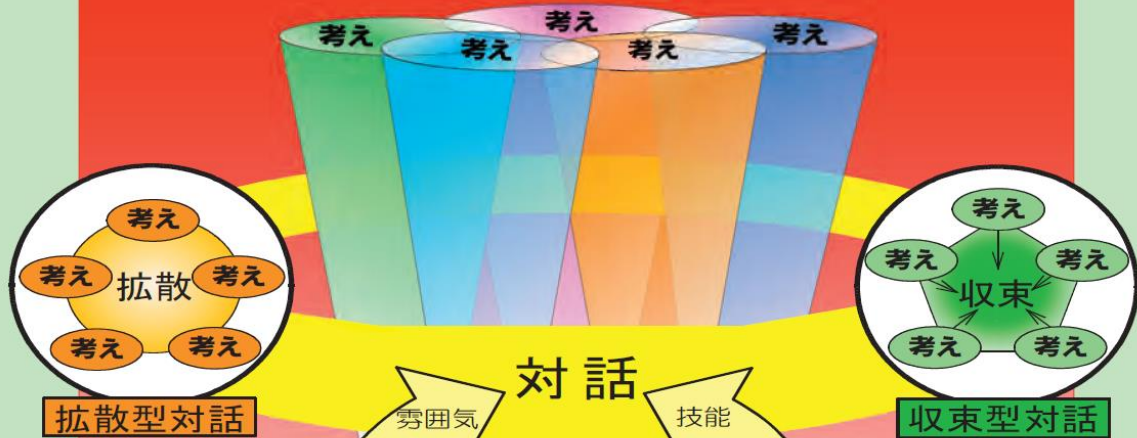
平成26, 27年度研究主題

対話を通じた「思考力」の育成

—「育てるカウンセリング」を生かして、個々の考えを広げ深める授業づくり—

「思考力」

思考活動



「育てるカウンセリング」を生かした支援

教師の観察
Q-U等の質問紙調査

教材・授業構成の工夫

「思考力」の育成に向けて

平成25年度研究主題

「思考力」を育成するユニバーサルデザインの授業づくり（2年次）
—特別支援教育の考えを生かして、すべての子どもの思考活動を保障する—

【研究の成果と課題】

- 「学習意欲」と「知識・技能」に複数の働きかけを行うことにより、「思考力」を育成することができた。
- 特別支援教育の考えから、「教材と子どもの関わり」を促すことによる学び合いの活性化がある程度達成されたが、依然として子どもどうしの関わりに課題が見られる。

【子どもたちの現状】

現代の子どもたちは、自分の考えを積極的に伝えたり、相手の話にしっかりと耳を傾けたりすることについて、課題がある。

「育てるカウンセリング」を生かした授業実践例

第4学年 社会科「災害を前に、みんなの力で守ろう！わたしたちの暮らし」

本実践では、災害の防止や災害発生時の対応についての多様な考えを共有するために、自分のことを分かりやすく伝えたり、友達の話を聴き、質問をしたりする技能が必要です。しかし本学級には、話し手が何かを伝えようとしている時に相手から目をそらしたり手遊びをしたりする等、聴く技能が十分に定着していない様相が見られました。そこで、朝の活動で実践した「上手な話の聞き方：①タイミングよくうなずく、②タイミングよくあいづちを打つ、③相手が話しやすい態度をとる」の三つを、対話の際にうまく使っている子どもを称賛することで想起させるようにしました。このような支援により、友達の話を最後まで聴く技能を高め、話しやすい雰囲気をつくることができました。



【教師が聴き方を称賛】

28日(木) 提案授業 I

国語科 4年

「平和への思いをこめて音読しよう
～『世界一美しいぼくの村』～」
西岡 由都

『世界一美しい村へ帰る』等、つながりのある物語の叙述と結びながら、『世界一美しいぼくの村』の場面の様子がよく分かるように音読します。
その際、個々に、どの叙述と結んだのかを友達と伝え合うことで、場面の様子をより豊かに想像できるようにし、自分たちの音読に生かしていきます。

国語科 6年

「ポップを使って自分が選んだ物語を紹介しよう -『海のいのち』-」
尼子 智悠

物語の叙述と叙述のつながりを提示できるつり下げ型ポップを使い、物語から捉えたメッセージを友達に紹介します。そのポップをつくっていく中で、自分がメッセージ性を感じた叙述と友達がメッセージ性を感じた叙述とを対話によって関係づけ、作品のメッセージを深く捉えていきます。

社会科 3年

「願いを叶える！道具が変わる私たちの生活」
藤本 博文

古くから残る道具を使ったり調べたりして分かったことを基に、道具の変化に伴うよさや課題について伝え合います。
そうすることで、道具が変化することと人々の生活が変化する様子とを関係づけることができ、人々の生活への願いを具体的に捉えていきます。

算数科 2年

「10000までの数について調べよう」
白川 章弘

本実践では、具体物の操作を通して「3200は100を32個集めた数」といった数の相対的な大きさを捉えていきます。数を構成したり分解したりする方法について、各位の数字と具体物の操作とをつなぎながら説明し合うことで、十進位取り記数法で表された数の仕組みについての理解をより一層深めていきます。

理科 6年

「上手につくって賢く使おう
-電気と私たちの暮らし-」
濟城 智哉

本実践では、発電、蓄電、変換する活動を通して、電気の性質や働きを捉える力の育成を目指します。電熱線と発熱との関係を推論しながら、一定時間内に設定水温にする実験を行います。電熱線の条件（太さ、長さ、本数）を変えて実験した者どうしが対話することで、電気についての理解を深めていきます。



図画工作科 1年

「想像を膨らませてかこう
-うつつかたちから-」
造田 朋子

版で写した形や色から想像を膨らませ、自分の表したいことを版画で表していきます。作品をつくりながら、版の向きや並べ方、写す数、色の組み合わせ方等、表現方法の工夫を伝え合うことで、さらにおもしろい工夫を見つけたり、自分の思いに合った工夫を選択したりしていく力を育成します。

家庭科 5年

「オリジナルバッグを作ろう」
芳我 清加

袋の製作計画において、目的に合うように大きさや形を工夫する力の育成を目指します。そのために、各自が透ける布で試作し、袋の構造とそのようにした理由を説明し合います。それにより、どこに、どれだけのゆとりや縫いしろを加えるか、どのような形にするかを明確にし、製作に生かしていきます。

体育科 2年

「ドリームランドへレッツゴー！
～表現遊び～」
山路 晃代

遊園地にある乗り物の様子や特徴を捉えながらなりたいものを選び、そのものになりきって楽しく踊るための動きを選ぶ力を育てていきます。そこで、手がかかりとなるいろいろな紙飛行機の飛び方をまねして踊り、その際見つけた動きのよさを伝え合うことで、なりたい乗り物の動きのイメージを広げていきます。

体育科(保健) 5年

「身の回りで起こるけがを防ごう」
渡辺 博美

運動場のイラストを基に危険を予測し、その原因を人の行動や周りの環境から探り、けがを防ぐための手だてを考えていきます。そして、それぞれの手だてについて話し合うことで、人の行動と周りの環境の両面から考えることの大切さを捉え、身の回りで起こるけがや事故を防止できるようにしていきます。



29日(金) 提案授業Ⅱ

国語科
3年

「ぼく・わたしのオリジナル詩集
を作ろう ー気持ちを言葉にー」
片岡 亜貴子

お気に入りの詩や自分で作った詩を1冊のオリジナル詩集にまとめて紹介し合うという言語活動を通して、詩の情景を想像する力を育てます。詩集に入りたい詩を選択する際に、表現技法を用いたことばを手がかりに想像を広げ、その詩のよさを伝え合う中で、より豊かに詩の世界を捉えていきます。



算数科
5年

「式と表をつないで考えよう
ー変わり方ー」
清水 顕人

○や△を使って一般的に表された式を基に、表を用いて具体的な数値に表して調べていきます。そして、表から見つけた二つの数量の対応や変化の仕方の特徴を説明し合います。そうすることで、式と表、図等をつなぎながら、式の意味を読み取り、二つの数量の関係を捉えていきます。

生活科
1年

「昔の遊びを楽しもう」
中家 啓吾

子どもたちは、自分で製作したおもちゃを使って、昔の遊びを楽しむ活動を行い、遊びに用いるおもちゃや遊び方をさまざまに工夫していきます。その際、友達と一緒に遊び、遊んだ感想を互いに伝え合うことで、それぞれの遊びのよさや工夫に気づき、よりよい遊びにできないかと、考えを深めていきます。



理科
5年

「物が溶けるふしぎ」
竹森 大介

子どもたちは、物をもっと多く溶かすには水の量や温度を変えればよいと考えます。そして、水の量や温度の条件を制御して実験を進めます。

実験結果を表したグラフを比較しながら、2種類の物の溶け方の共通点、差異点を話し合うことで、物の溶け方の規則性を捉えていきます。

音楽科
2年

「様子を思い浮かべて歌おう
ー『こぎつね』ー」
溝淵 佳子

歌詞や曲想からその情景を想像し、思いや意図をもって強弱や速度、反復のしかたを工夫する力を育てます。そのために、強弱や速度を工夫した歌い方を聴く時間を設定します。思い浮かべた情景を基に歌い方の工夫を伝え合うことで思いや意図をもって表現する楽しさを味わいます。



体育科
4年

「みんなで目指せタッチダウン！
～フラッグフットボール～」
山本 健太

フラッグフットボールで相手よりも多くの陣地を奪ってゲームに勝つためには、その場の状況に応じて作戦を選び、攻撃していく必要があります。そこで、同じ状況下において、複数ある作戦それぞれの有効性を、作戦カードを用いて伝え合うことで、十分な根拠をもって作戦選択に向かえるようにしていきます。

道徳の時間
2年

「友達っていいな
ー『ないた赤おに』ー」
山路 晃代

友達を思うこと、友達が自分のことを思ってくれていることに気付かせることで、互いを思い合う気持ちを高め、より友達を大切にしようとする態度を育てます。そこで、青鬼に対する赤鬼の気持ちを出した後、自分の気持ちに近いものを選択し、選んだ理由を伝え合いながら価値に迫っていきます。

提案授業Ⅲ 全体授業

社会科
6年

「安住の地を求めて ー難民問題を通して見える世界と日本の役割ー」
渡部 岳史

戦後70年。今も世界は紛争等により多くの難民を生み出しています。平和な日本に住む私たちが、難民問題に関心をもち、世界平和について考えることは大切です。難民発生から解決までの長い年月の中で、難民の他地域への流出状況やさまざまな組織が行う支援を調べることによって得られた事実を相互に関係づけ、生活への影響や難民と支援者の思いや願いに迫っていきます。その中で難民問題解決に向けた日本の役割について話し合うことで、世界平和は各国の信頼関係の上に成立することを捉えていきます。

28日(木)

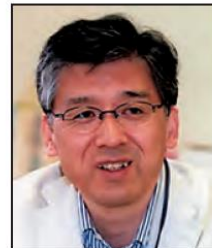
12:15	12:40	13:00	13:15	13:30	14:15	14:25	15:35	15:50	16:50
受付	開会式	全体提案	移動	提案授業Ⅰ	移動	授業討議Ⅰ	移動	全体講演	



全体講演

演題 対話のある授業づくり
 - 授業に生かす育てるカウンセリング -

北海商科大学 教授
 大友 秀人 先生



主な著書：『対話のある授業』
 『授業に生かすカウンセリング』等

29日(金)

8:00	8:25	8:40	8:55	9:40	9:50	11:00	11:20	12:20	13:30	13:40	14:25	14:40	16:10
受付	全体提案	移動	提案授業Ⅱ	移動	授業討議Ⅱ	移動	分科会講演	昼食	授業説明	全体授業(社) 提案授業Ⅲ	移動	シンポジウム	閉会式 終了時刻 16:20

分科会講演

学習指導要領改訂の時期を迎え、今求められる授業の在り方について

国語科の学習指導について

文部科学省初等中等教育局
 教育課程課 教科調査官

水戸部 修治 先生

主な著書：『単元を貫く言語活動を位置付けた文学の
 授業づくり その基礎・基本と代表教材実践事例』等



社会科の学習指導について

香川大学 教授

伊藤 裕康 先生

主な著書：『未来への扉を拓く道徳教育』
 『社会参画の授業づくり -持続可能な社会に向けて-』等



育てるカウンセリングについて (演習形式)

心の成長について、対話のある授業が体験できます

北海商科大学 教授 大友 秀人 先生

「特別の教科 道徳」の 学習指導について

香川大学 教授
 元文部科学省教科調査官

七條 正典 先生

主な著書：『未来への扉を拓く道徳教育』等



特別支援教育の視点を生かした 学習指導について

香川大学 教授

坂井 聡 先生

主な著書：『自閉症スペクトラムなど発達障害がある人
 とのコミュニケーションのための10のコツ』等



シンポジウム

「対話を通じた『思考力』の育成」について、3名の先生方と全体授業を基に語り合う

《シンポジスト》

大友先生 水戸部先生

全体授業者 本校研究副部長(司会)

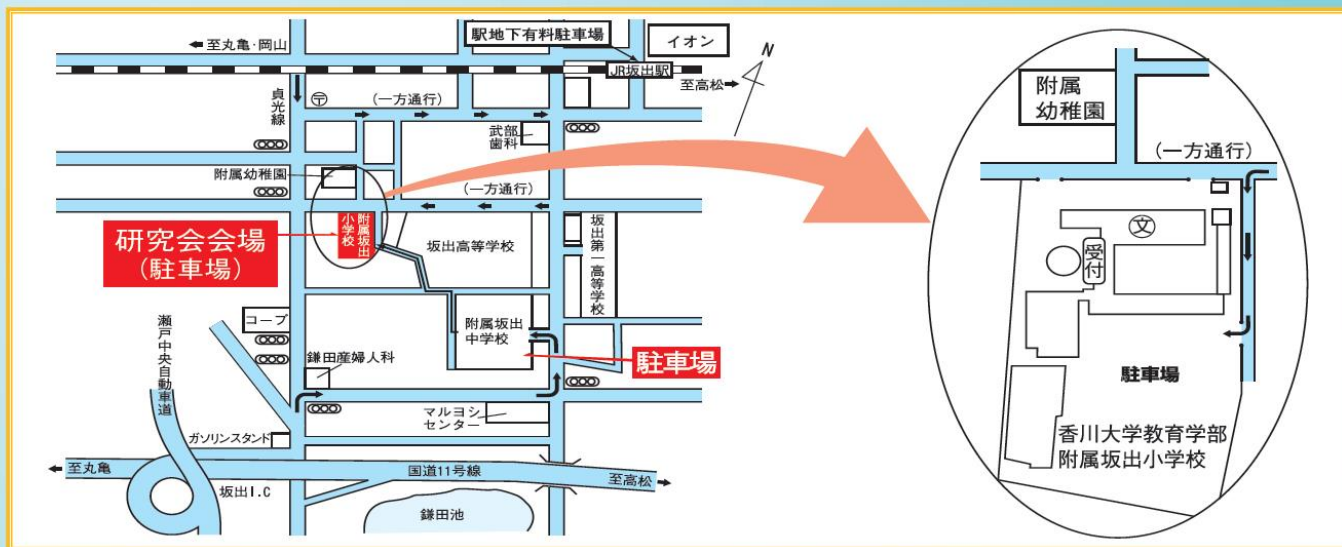
道徳の時間の取り組み

昨年度より、「他者との関わり」に焦点を当て、対話を通して子どもたちの道徳性を育てる授業づくりに取り組んできました。経験を想起させることで子どもと資料をつなぎ、自分のこととして対話できるようにしたり、対話における対立軸を明確にすることで、それぞれの価値に深く気付かせたりする支援を行っています。

さらに本年度は、道徳の時間における評価方法の工夫にも取り組んでいます。



- **参加費** 3,000円（資料代を含む）
- **昼食** 弁当の当日販売はございません。「参加申し込み書」にて、注文を承ります。代金は1,000円です。当日、受付でお支払いください。
- **本校の位置** JR坂出駅下車、南口より徒歩で約10分。
坂出インターチェンジから、北へ車で約5分。



- **駐車場** 附属坂出小学校、及び中学校(徒歩約5分)の運動場をご利用ください。駐車場が満車となる場合がありますので、公共交通機関をぜひご利用ください。
- **申し込み** 1月22日(金)までに、「参加申し込み書」にご記入の上、FAXでお願いいたします。申し込み用紙は、本校ホームページからもダウンロードできますので、ご利用ください。

お願いとお知らせ

- ※ 当日、受付にて来校者名札をお配りします。児童の安全管理のため、着用をお願いいたします。
- ※ 個人情報保護の観点から個人が特定できる写真、VTRの撮影はご遠慮ください。
- ※ 悪天候やインフルエンザの流行等で予定を変更することがあります。そのような場合には、ホームページで随時お知らせいたします。
- ※ 研究会開催中に災害が発生した場合は、本校職員の指示・誘導の下、速やかに避難してください。



お問い合わせ

香川大学教育学部附属坂出小学校研究部
 〒762-0031 香川県坂出市文京町二丁目4番2号
 TEL (0877)46-2692 ・ FAX (0877)46-5218
 E-mail sakashokenkyu@ed.kagawa-u.ac.jp
 URL <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/>